



生き物のつながりを感じてみよう

—生物多様性保全推進事業

市では、多様な生き物によってもたらされる恵みを守り、継承していくため、自然や生き物への理解や関心を深める取り組みを行っています。

自然の豊かさを身近に

「杜の都仙台」は、地域の約8割が緑に覆われ、森林や広瀬川の清流、市街地のケヤキ並木などの多彩で豊かな自然環境を有しています。そこには動物や昆虫、植物など多種多様な生き物が生息し、互いにつながり関わり合うことで、豊かな生態系が維持されています。多様な生き物が存在し、つながり合っていることを「生物多様性」と言い、きれいな空気や水、食料など、私たちの暮らしは、このたくさんの生き物がもたらす恵みに支えられています。

近年、森林の開発や海の汚染、地球温暖化などの影響により、多くの生き物が絶滅の危機にあり、生物多様性の保全が世界的な課題となっています。私たちの命と暮らしを支える生物多様性を守るためには、生き物への理解を深め、多くの種類の生き物の命を未来へつなげていくことが大切です。

多様な生き物の魅力発信

市では、平成29年度より生物多様性保全推進事業を実施し、さまざまな取り組みを行っています。生き物やその生育環境への関心を高めるため、環境省が選定する「残したい日本の音風景100

選」に「広瀬川のカジカガエルと野鳥」として選ばれたカジカガエル、市の鳥であるカッコウ、市の虫スズムシの、仙台にゆかりのある3種の生き物に着目。野外観察会の開催や鳴き声・動画の配信などを通して、身近な生き物を知り、きっかけづくりを行っています。また、市東部にある大沼付近のヨシ原のヨシを手入れし、カッコウなどの生育環境を守る取り組みや、

作並・新川地区などの里地里山の自然に触れるエコツアーの開催などにより、豊かな自然の魅力発信しています。自然や生き物を身近に感じることは、自然とのつながりを知るだけでなく、小鳥のさえずりや季節の移ろいに気付くなど、毎日の暮らしに彩りを与えてくれるものです。自然や生き物たちに親しむことから始めてみませんか。

知っていますか？ 仙台ゆかりの生き物たち



カジカガエル

ふいふいと日本一美しい声で鳴くカエルとして知られています。市内でも5～7月頃に広瀬川などで聞くことができます



カッコウ

夏鳥として知られ、5月頃に仙台にやってきます。近年、世界的にその数が減少しています



スズムシ

古くは宮城野原に自生し、歌にも多く詠まれたスズムシ。今は自然の中でその姿を見つけることは難しくなっています

*生き物たちの鳴き声を聞く

→仙台市環境Webサイトたまきさん (<https://www.tamaki3.jp/>) でカジカガエルなどの鳴き声をハイレゾ（高音質）音源を聞くことができます

*動画を観る

→仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」で、生き物や里地里山の魅力を紹介する動画を配信しています

*イベントに参加する

→観察会やエコツアー等の開催については、仙台市環境Webサイトたまきさんをご覧ください

この特集に関するお問い合わせは、環境共生課 ☎214・0013、FAX214・0580